

全連小第 241 回理事会・第 74 回総会研修会報告 伊賀 真美 副会長

第 241 回理事会の報告。26 日に KKR ホテル東京において行われた。おりしも、24 日にマスクの着用に関する通知が出されたが、演題に立つ全連小役員は、自分が話す前に必ずマスクを外していた姿が印象的であった。校長会リーダーのこうした姿に、時代が変わることを予感するものであった。実際に大字会長のご挨拶では豊かな表情を通し、教育への熱い思いを感じることができた。

挨拶の中で「教免法・教特法の改正」「令和 5 年から始まる定年年齢の引き上げ」「教員の質と量の確保」などについて述べられていた。また、「義務教育費国庫負担を 3 分の 1 から 2 分の 1 へ復活するよう」に、全連小で要望し続けるというお話も伝えられた。さらに、10 月 13 日、14 日の全連小島根大会はぜひとも会場で開催したいと語られるとともに、令和 5 年 10 月 19 日、20 日の第 75 回全連小東京大会は 25 年に一度の記念事業なので、「総力を結集して成功に導きたい。」という力強い言葉で挨拶が結ばれた。

総会議案等については省略させていただくが、連絡では、島根県の役員によるプレゼンテーションで出雲大社や松江城などが紹介され、非常に魅力的な開催地であることを感じた。また、震災等災害被災県である宮城県小学校長会からの報告では、震災後 11 年経ってもなお残る被害の爪痕に改めて心を揺さぶられる思いであった。

プリント裏面は翌 27 日に、ニッショーホールで行われた第 74 回総会の様子である。オンラインで配信されたのでご覧になった方も多はずである。会場が 400 名の校長で埋め尽くされる中、国歌斉唱で総会が始まったときは驚きを感じた。「ウイズコロナ」を感じ、対策を取りながらも前を向くときであることを改めて感じた次第である。

写真は挨拶をする大字会長だが、左側の前列に常任理事である道小の紺野会長の姿も見える。大字会長は挨拶の中で、私たち校長が自ら変化の先頭にたって新たな価値を生み出していこうとする気概をもって、小学校教育を発展させていくという強い決意を述べられた。「改めて教育は人なり。」と続けられ、「教職員を大切にしたい。」という言葉に、たいへん感銘を受けることとなった。

議事については第 74 回総会要録の通り承認されたので割愛させていただく。続いての文科省講話、個別行政説明についてもすでに皆様の手元に資料が届いているので、簡単な紹介にさせていただいた。個人的には教免法・教特法の改正を受け、令和の日本型教育の構築のために、「新たな教師の学びの姿」をマネジメントする校長の役割を、重く受け止めたところである。

今年度、副会長という役割をいただき、北海道という大きな視点で教育を考える皆様に出会うことで、大変な刺激を受けているところである。また、代表して理事会・総会に参加させていただいたことで、全国の校長会を肌で感じることもできた。このような機会をいただいたことに、心よりお礼を申しあげ、報告にかえさせていただく。